

図書館通信

静岡大学附属図書館報

No.164

2012.3

目次 ■ 巻頭言 ■ 図書館ギャラリー企画展報告 ■ 図書館モニター活動報告 ■ 教員等著作寄贈図書一覧
■ 図書館の動き ■ 図書館開館日程

巻頭言

1%



館長 加藤 憲二

新しく静岡大学のメンバーになられた皆さん、
静岡大学へようこそ！

大学も教育の場であることは高等学校と変わりませんが、その役割で大きく違う点があります。高等学校までは「今までに明らかになったこと」を<学ぶ>ことが教育の大きな柱ですが、大学にはそれに加えて、「まだ明らかになっていないことを考える、あるいは今までにないものを作り出す」、つまり<研究する>あるいは<創造する>ことを通して未来を切り開いていってくれる人を育てるという役割、使命があります。それを象徴するのが理工系の研究室にある様々な機器であるとともに、キャンパスの真ん中に近い位置にある大学の附属図書館です。

21世紀に入って情報の電子化が急速に進み、理工系の分野では研究情報の大半が電子媒体を通してやり取りされるようになってきました。電

子ジャーナルや電子データベースを扱う<見えない図書館>としての機能が現代の大学附属図書館にはあります。だからといって、場としての図書館の機能も決して色あせてきた訳ではありません。

今までに明らかになったことを<理解する>という作業はひとりの頭の中で完結する作業ですから、<試験>というような形でその成果が評価されます。しかし、新しいものを生み出していく上では人との議論は非常に重要。これは広くコミュニケーションと捉えてくださって結構です。そしてコミュニケーションは、<聞くこと>と<質問すること>から始まります。これから大学で大いにその手法も学んで下さい。そして先に述べた個人の営みである<理解>も、実は会話することによって、つまりいったん自分の外に出すことでいっそう深まることがしばしばです。そのようなことも考えて、図書館の中にも<話すことができる空間>をつくりました。多くの大学でコモンズ commons（公共的な土地や空間、広場などの意味）にラーニングを冠してラーニングコモンズと呼ばれていますが、静岡キャンパスの図書館では全体を Learning Park というコンセプトでまとめグループ学習ができるスペースをハーベSTRームと呼んでいます。浜松キャンパスの図書館も昨年行なった“プチ改修”でそのようなスペースを工夫して作りました。まだ十分ではありませんが活用してください。浜松キャンパスについては、少し長期計画ですが、浜松の土地柄を意識した、地域や先輩たちとのつながりを深めることもできる機能を加えた新しい図書館を Students' port という構想で練っています。

また、図書館を大学の中で人が交流する場にしたと考えて、ギャラリーを静岡館では一昨年の改装時に入り口横にもうけました。書道や美術ばかりでなく様々な活動が紹介されています。自分とは違った分野の静岡大学の仲間の活動に出会ってください。楽しいですよ、きっと。

そして昨今とみに厳しいお金の話。国立大学法人である静岡大学の運営は、国からの交付金約100億円（これが毎年1%減額され続けているという困った事態が続いています。ただしこの1%が表題にきている訳ではありません。）と、1万1000人の学生のみなさんからいただく授業料などのお金約60億円、これに私たち教員が大学外部から研究のために得る資金などをつかっておこなわれています。その皆さんからの納付金の1%（これです！表題は。）を学生のための図書を購入する予算にする方向で検討を進めています。現在はその半分程度ですが、それが国立大学の平均的な姿です。静岡大学はこの平均的な状況を変えようと考えています。

最後に、図書館で活動してみませんか？

附属図書館には学生モニターの制度がありません。街へ出て自分たちで本を選ぶことも活動の一つです。快適な、自分たちの図書館を作る作業に参加してみませんか？大学が違って見えてくるかもしれません。

すでに行く千里の道、 いまだ読まず万巻の書



分館長 高松 良幸

「万巻の書、万里の道」という言葉がある。

中国では、古くから語られてきた文人（教養人）の生き方を示した言葉である。ジャンルを問わず、さまざまな書物に接することで幅広い知識を得るとともに、各地を訪れて実物、実際の自然、人間などを体験することによって、知識、思考、精神の充実をはかり、以って人生の喜びを求めることである。

中国の文人には、趣味で絵を描くものが多かった。彼らは、単に趣味で描いたのではなく、自らの胸中（心の中）にある思い、物の見方などを、形として絵に表わすことで、精神の修養を求めたのである。したがって、作品が、描く対象と似ているかどうかは問題にしない。例えば山を描く場合、山の形よりも、山の雄大な風情、自らの山に対する思いなどを表現することを重視する。このような絵画を文人画という。中国における文人画の理論を大成した明代の文人画家董其昌は、万巻の書、万里の道を体験することによって、自然の本質を写し取ることができると主張している。

さて、表題は、江戸時代中期の日本に、中国の文人画の理念、作風を広めた池大雅が、「已行千里道未読万巻書」と刻んだ印章を愛用するほど好んだ言葉。大雅は、幼少期から学問に優れ、数多くの書物に接するとともに、富士山、立山、白山に登山するなど、日本各地を旅した。まさに日本において「万巻の書、万里の道」を実践した文人画家であるが、自らは、万里を千里と置き換え、万巻の書は読破していないという。

つつましい述懐は、大雅の性格によるものかもしれない。しかし、それ以上に、この言葉が意味するのは、文人としての理想を求める大雅の向上心というのではないだろうか。大雅は、生前から文人画家としての名は高かったが、作品に高額な画料を要求することもなく、京都東山のあばら家のような住まいで、清貧の人生を送った。その反面、趣味や知識をとにもする多くの友人を全国各地に持ち、後輩からも慕われた。

ちなみに、筆者は、大雅をはじめとする江戸時代の画家や作品の研究を行っている。美術の研究というのは、各地にある実物の作品を調査し、その作品に関連する情報を、様々な書物の中から探し出すことによって成り立つもので、まさに「万巻の書、万里の道」を実践中。しかし、大雅同様「すでに行く千里の道、いまだ読まず万巻の書」という気持ちを持ち続けたい。

学生時代は、「千里の道」を試みるチャンスである。「万巻の書」には、図書館を是非ご活用いただきたい。

【平成 23 年度 図書館ギャラリー企画展報告】

今年度も静岡本館ギャラリーは素敵な企画展にめぐまれて、図書館を訪れる来館者の皆様楽しんで頂くことができました。開催を通じて研究の成果、作品、そして人との出会いがありました。本当にありがとうございました。

| | 開催期間 | 企画展名 (gallery talk or workshop) | 主催 |
|--------|---------------------|--|----------------------------------|
| 第 1 回 | 2011 年 4/4~5/20 | 美術学生によるボックスアート展 (4/18) | 教育学部 教科教育学・美術デザイン 教育学研究科 美術教育 |
| 第 2 回 | 5/30~6/17 | 教師への一步を踏み出そう (6/10, 6/17) | 静岡大学 模擬授業サークル 飛翔 |
| 第 3 回 | 6/27~7/15 | 昆虫展示会 ~むしどころ~ (6/30, 7/7, 7/14) | 静岡大学 昆虫同好会 虫処 |
| 第 4 回 | 7/19~7/26 | 静岡の教育 -学力・国際理解・防災- (7/26) | 教育学研究科 授業「中等教育の総合研究」 |
| 第 5 回 | 7/27~8/12 | 新入生セミナー授業成果発表 「放射能と地震」(8/8) | 理学部 生物学科 「新入生セミナー」 |
| 第 6 回 | 9/26~10/14 | 写真部「夏展」 | 静岡大学 写真部 |
| 第 7 回 | 10/24~11/22 | 未確認生命体? UMA 捕獲大作戦! in 静岡大学 | 教育学研究科 美術教育デザイン |
| 第 8 回 | 11/29~12/16 | 社会教育実習「マイライス」写真展 | 教育学部 生涯学習教室 「社会教育実習」 |
| 第 9 回 | 12/20~12/27 | 大学から地域社会へ -静岡ラーニング・ラボの取り組み- (12/27) | 静岡ラーニング・ラボ |
| 第 10 回 | 2012 年 1/11~1/27 | バンングラデシュ -今を見つめる写真展- (1/24) | 教育学部 国際理解教育 |

第 10 回企画展「バンングラデシュ -今を見つめる写真展-」の主催、教育学部の宇田さんに感想を頂きました。

「写真展にかけた思い ~途上国に対する先入観を取り払ってほしい~」

教育学部 生涯教育課程 国際理解教育専攻 宇田優里

昨年、バンングラデシュでスタディツアーを行い、ストリートチルドレンの施設、家事使用人として働く少女たちのシェルター、フェアトレード生産施設などを訪れました。そこにいる子供や女性たちにインタビューをすることで、彼らの実生活の様子や心情を知りました。また、施設を運営しているスタッフにもインタビューをし、「弱い立場の人たちが自立できるように…」という熱い思いを感じました。



そして、「この事実を皆にも知ってもらい、途上国に対する先入観を取り払ってほしい」、「何かを考えるきっかけになれば…」という思いを形にしたのが今回の写真展でした。現実をそのまま伝えることを軸に、写真や民族衣装・フェアトレードの商品である手工芸品などに加え、インタビュー内容も掲示しました。実際に来場して下さった多くの方が、「人生を切り開いていく子どもたちの力強さを感じた」、「イメージしていた途上国と違った」という内容のメッセージを残してくださいました。



多くの方が来場して下さったこと、そして皆さんに頂いた言葉の一つ一つが、これからも私たちが国際理解教育の分野で活動していく刺激や励みになりました。また、図書館の職員の皆様にも大変お世話になりました。本当にありがとうございました。この経験で学んだことを生かし、これからも前進していきたいと思います。

<図書館モニター活動に取り組んで>

教育学部・総合科学教育課程 2年 勝又 稜

一年生のみなさんご入学おめでとうございます。大学に入ると今までとは違った新たな「学び」をすることになり、日々の学びを強力にサポートしてくれるのが大学図書館です。そんな静大生の心強い味方である静大図書館、そこにはより学生の意見を反映し利用しやすい図書館を目指すべく設立された「図書館モニター」というグループがあります。私は静岡キャンパスの図書館モニターに所属しています。私たちは静大図書館を快適で利用しやすい場所にするを目指して、図書館に意見を言ったり、学生だからこそできる企画を考え実行していく学生のボランティアグループです。昨年度から本格活動を始め、現在は約40名のメンバーで日々活動をしています。みんなで楽しくワイワイと活動していくことを基本として、だいたい月一回モニターミーティングで意見交換やイベントの企画を行っています（そこで出る職員さんからのお菓子の差し入れも楽しみだったり…）。

昨年度の活動としては、夏の“緑のカーテンづくり”ではアサガオやゴーヤを図書館のベランダで育てて快適な学習空間を演出し、秋の“キャンパスフェスタ”（学生だけでなく地域の人や受験生にも静大の魅力を知ってもらおうイベント）では貴重な蔵書の展示や和とじ本の手作り体験、図書館のマメ知識クイズを行い2日間で150名以上の方にご参加いただきました。冬の“選書ツアー”では図書館の蔵書として購入する本をモニターが実際に書店に行って一冊一冊手に取って選びました。主だった活動はこんな感じですが、他にも多くの活動をしてきました。現在も水面下では、新入生のための図書館ツアーなど新たな企画が動いているらしい…。



▲ 緑のカーテンづくり

2010年4月に静大図書館本館はリニューアルオープンし、学生にとってより便利なものを目指して、今までの図書館にはなかった施設や機能が追加されました。そしてそれは図書館を舞台として活動する私たち図書館モニターの活動の幅をグッと広げてくれました。私自身この図書館でやってみたいことはたくさんありますし、まだ誰も気づいていない図書館の可能性もたくさんあると思います。そんな新たな可能性を見つけ実現させることができるのがこの図書館モニターです。本が好き、図書館が好き、とにかく何かしてみたいなど理由は何でも結構です。私たちと一緒に図書館モニターで一緒に活動してみませんか？！



▲ 和とじ本を作ろう

<学生と図書館をつなぐ図書館モニター>

人文学部・法学科2年 今井 啓太

新入生の皆さん、静岡大学へのご入学おめでとうございます。謹んでお慶び申し上げます。大学という新たな世界での生活がスタートしました。私は、後輩である皆さんとの新たな出会いに期待を膨らませています。皆さんも期待や不安、各々に感じることはあるのでしょうか。勉学や部活、ボランティア活動あるいは仲間との出会い等、期待を胸に秘めているのではないのでしょうか？大学生活を通して本気になって取り組めるそんな素敵な目標が見つかるといいですね。

さて、図書館モニターについてお話をしたいと思います。図書館モニターとは、図書館がより快適なものとなるようにアイデアを出したり、それを実際に自分たちの力で実現することを目的とした、学生主体の団体です。活動内容は、静大図書館に置いてみたい本を選んで購入する選書ツアー、オススメ本の紹介、図書館の魅力を皆さんに伝える広報活動など幅広く取り組んでいます。図書館モニターの特徴はなんといっても我々学生たちが自分たちの意思をもって主体的に活動するスタイルにあります。図書館を利用する立場である僕たちの視点から「こんな風にしたら図書館がもっと魅力的になるんじゃないかな?」、「こんなことしたら学生達が図書館を利用しやすくなるんじゃないかな?」といった意見を出し、それを図書館に反映してよりよい図書館となることを目指しています。また、学生と図書館とを結びつけるのも図書館モニターの役割のひとつです。

去年皆さんと同じように静岡大学に入学して早くも一年が過ぎました。5月に図書館モニターに所属してからあっという間の時間でした。「なんとなく、興味があったから」そんな理由で図書館モニターに参加した私も、今ではアクティブな態度で活動に取り組んでいます。図書館を利用するだけでなく、図書館を皆さんにとって利用しやすいものとする活動に携りたい、そんな意識を持つようになりました。残りの大学生活を通じて図書館モニターとして、素敵な図書館を目指していきたいと思います。また一方では、メンバー同士



▲ 選書ツアーの様子



▲ 静大図書館の歩き方

の活動を通してコミュニケーション能力や会議での立ち振る舞いといった、社会に出てからも役立つような能力を養い、自分自身を磨くチャンスとして活動に勤しんでいきたいと考えています。図書館に興味を持っている皆さん、是非とも図書館モニターの活動に参加してみてください。皆さんと図書館でお会いできるのを楽しみにしています。

～教員等著作寄贈図書一覧～

このリストは本学教職員により著作(等)され図書館にご恵贈していただいた図書を一覧にしたものです。(各館五十音順) (平成24年2月29日現在)

●本館受入

◇内田恵 (教育学部)

- ・ちょっとトクする英文法[静岡学術出版]〈著者〉
静・書庫【835/U14】

◇小二田誠二 (人文学部)

- ・静岡ハリストス正教会のアイコンと山下りん
[静大人文学部言語文化学科「静岡の文化」受講生グループ ICORIN] 〈学生指導〉
静・4F 視聴覚コーナー【198.19/A(DVD)】

- ・ハリストス正教会:めくるめくアイコンの世界
[静大人文学部言語文化学科「静岡の文化」受講生グループ ICORIN] 〈学生指導〉
静・4F 視聴覚コーナー【198.19/A(DVD)】

- ・茶の世界講義ノート:静岡大学:2009年度学際科目
[静岡大学人文学部小二田研究室] 〈編著〉
静・開架【619.8/K075】

- ・ふたつの“FUJI”を繋ぐ歯車 (GEAR):静岡名物!?
時計とオルゴール [静岡大学人文学部言語文化学科] 〈学生指導〉 静・開架【602.154/N79】
- ・ふたつの“FUJI”を繋ぐ歯車(ギア):静岡名物!?
時計とオルゴール [静岡大学人文学部言語文化学科] 〈学生指導〉
静・4F 視聴覚コーナー【602.154/A(DVD)】

- ・忘れられた仏教天文学:小島龍津寺所蔵須弥山儀の謎
[静大人文学部言語文化学科「静岡の文化」受講生グループ ICORIN] 〈学生指導〉
静・4F 視聴覚コーナー【180.4/A(DVD)】

- ・鍔絵師森田鶴堂の世界:2009年度「静岡の文化」参加事業報告書
[静岡大学人文学部言語文化学科] 〈学生指導〉 静・開架【529/N79】
- ・鍔絵師森田鶴堂の世界:日本漆喰鍔細工・鍔絵の名工
[静大人文学部言語文化学科「静岡の文化」受講生グループ ICORIN] 〈学生指導〉
静・4F 視聴覚コーナー【529/A(DVD)】

◇田村貞雄 (名誉教授)

- ・大江志乃夫教授著作目録 [田村貞雄] 〈編者〉
静・書庫【289.1/018T】

◇長崎栄三 (大学院教育学研究科)

- ・数学教育に於けるリテラシーについてのシステム
ミック・アプローチによる総合的研究
[長崎栄三] 〈研究代表者〉
静・開架【375.41/N21】

◇中本義彦 (人文学部)

- ・国際関係理論 [勁草書房]〈執筆〉

静・開架【319/Y89】

- ・政治学をつかむ [有斐閣]〈共著〉【311/KA69】

◇弓野憲一 (名誉教授)

- ・英国初等学校の創造性教育(上)(下)
[ITSC 静岡学術出版事業部] 〈監訳〉
静・書庫新書【372.33/W75/S】
- ・発達・学習の心理学 [ナカニシヤ出版] 〈編者〉
静・書庫【371.4/Y97】

●分館受入

◇相川覚 (非常勤講師・卒業生)

- ・技術や人生:床材や事始め
[相川覚] 〈著者〉 浜・開架【289.1/A25】

◇立元雄治 (工学部)

- ・はじめての乾燥技術 [日刊工業新聞社] 〈共著〉
浜・開架【571.6/N37】
- ・初歩から学ぶ乾燥技術 [丸善] 〈著者〉
浜・開架【571.6/N37】

◇戸田三津夫 (工学部)

- ・静岡大学アメニティ佐鳴湖プロジェクト活動報告書:七年間の活動のまとめ [静岡大学アメニティ佐鳴湖プロジェクト] 〈編集〉
浜・開架【519.4/SH94】

◇中島伸治 (工学部)

- ・力学・波動 [日新出版]〈共著〉 浜・開架【423/R41】

◇情報基盤センター

- ・進化するクラウド情報基盤:静岡大学情報基盤稼働1年間の実績と評価 [ITSC 静岡学術出版事業部] 〈著者〉 浜・開架【007.3/KU57】

●本館・分館共通受入

◇S. Reddy (情報学部)

- ・雑誌『女人芸術』におけるジェンダー・言説・メディア [学術出版会] 〈著〉
静・浜・開架【367.21/R22】

◇池谷仙之 (名誉教授)

- ・しずおか自然史 [静岡新聞社] 〈監修〉
静・書庫/浜・開架【402.915/N98】

◇小和田哲男 (名誉教授)

- ・日本を変えたしずおかの合戦:駿河・遠江・伊豆
[静岡県文化財団] 〈執筆〉
静・書庫/浜・開架【382.154/SH94/4】

◇川瀬憲子 (人文学部)

- ・アメリカの補助金と州・地方財政:ジョンソン

政権からオバマ政権へ [勁草書房] <著者>

静・書庫/浜・開架 【349.253/KA97】

◇重岡廣男 (教育学部)

・しずおか竹取物語 [静岡県文化財団] <執筆>

静・書庫/浜・開架 【382.154/SH94/3】

◇芳賀直哉 (大学教育センター)

・南方熊楠と神社合祀：いのちの森を守る闘い

[ITSC 静岡学術出版事業部] <著者>

静・開架/浜・開架 【175.1/H12】

◇芳賀正之 (教育学部)

・しずおかホビーは凄い[静岡県文化財団]<執筆>

静・書庫/浜・開架 【382.154/SH94/2】

◇林部敬吉 (名誉教授)

・3次元視研究の新展開[名古屋ブイツーソリューション] <著者> 静・書庫/浜・開架 【141.2/H48】

◇原沢伊都夫 (国際交流センター)

・考えて、解いて、学ぶ日本語教育の文法[スリーエネットワーク] 静・書庫/浜・開架 【810.7/H32】

◇静岡大学人文学部社会学科文化人類学コース

・静岡県葵区・井川地区 (フィールドワーク実習調査報告書 平成23年度)

静・開架・書庫/浜・開架 【382.154/SH94/2011】

◇静岡大学教育学部附属浜松小学校

・共に学びを創る：学びの質が授業を変える
[教育出版] <著者>

静・開架/浜・開架 【375.1/SH94】

◇静岡大学男女共同参画推進室

・静岡大学「女性研究者と家族が輝くオンデマンド支援」報告書 [静岡大学男女共同参画推進室]

静・書庫/浜・開架 【367.2/SH94/2008-2010】

〽️ 図書館の動き 〽️

平成23年度第1回附属図書館委員会

<平成23年4月21日(木)>

○審議事項

1. 附属図書館関連委員会委員等の選出について
(1) 広報委員会委員及び情報基盤センター運営委員会委員
(2) 図書館通信編集委員
(3) 附属図書館自己点検・評価実施委員会委員
(4) 電子ジャーナルWG委員
(5) 附属図書館本館及び浜松分館WG委員
(6) 東部及び西部学生用図書選定部会委員
2. 外国からの大学司書職員の受入れについて

○報告事項

1. 平成23年度附属図書館事業計画について

2. 学術リポジトリの登録状況について

3. 平成23年度学生用図書第1次選定について

平成23年度第2回附属図書館委員会

<平成23年7月19日(火)>

○審議事項

1. 附属図書館関係規則等の一部改正について
2. 平成22年度附属図書館経費決算について
3. 平成23年度附属図書館経費予算について
4. 平成23年度学生用図書購入費の配分について
5. 平成24年度概算要求について

○報告事項

1. 浜松分館の改修について
2. 次期図書館業務用電子計算機システムについて
3. 大学図書館コンソーシアム連合 (JUSTICE) について
4. 附属図書館利用状況について
5. 平成23年度図書館利用セミナー (ベーシック編) 実施報告について
6. 研究室貸出図書の点検予定について

平成23年度第3回附属図書館委員会

<平成23年12月20日(火)>

○審議事項

1. 附属図書館の夜間及び休日開館の運用見直しについて
 2. 不用候補図書の不用決定について
- #### ○報告事項
1. 教員発注図書の取り扱いについて
 2. 附属図書館ギャラリーの運用について
 3. 平成23年度附属図書館利用セミナー等年間実施報告について
 4. 電子ジャーナル等の契約状況について
 5. 次期図書館業務用電子計算機システムについて
 6. その他
(1) 平成24年度附属図書館委員会委員の依頼について

◆人事異動

平成23年3月31日付

茎田美保子 [図書館情報課長→退職]

平成23年4月1日付

次良丸 章 [名古屋大学附属図書館事務部
情報管理課課長補佐→図書館
情報課長]

図書館開館日程〔2012年4月～2012年9月〕

| | |
|-------------|-------------|
| 9:00～22:00 | 10:00～17:00 |
| 10:00～19:00 | 9:00～17:00 |
| 9:00～21:00 | 休館日 |

静岡本館開館日程

※開館日・開館時間は変更することがあります。
臨時に休館する場合は、別途お知らせします。

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |
| 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |
| 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 |
| 29 | 30 | | | | | |

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|----|----|----|----|----|----|
| | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 |
| 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 |
| 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | | |

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|----|----|----|----|----|----|
| | | | | | 1 | 2 |
| 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 |
| 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 |
| 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |
| 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |
| 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 |
| 29 | 30 | 31 | | | | |

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|----|----|----|----|----|----|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 |
| 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 |
| 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 |
| 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | |

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|----|----|----|----|----|----|
| | | | | | | 1 |
| 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 |
| 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |
| 30 | | | | | | |

浜松分館開館日程

※開館日・開館時間は変更することがあります。
臨時に休館する場合は、別途お知らせします。

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |
| 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |
| 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 |
| 29 | 30 | | | | | |

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|----|----|----|----|----|----|
| | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 |
| 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 |
| 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | | |

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|----|----|----|----|----|----|
| | | | | | 1 | 2 |
| 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 |
| 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 |
| 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |
| 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |
| 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 |
| 29 | 30 | 31 | | | | |

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|----|----|----|----|----|----|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 |
| 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 |
| 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 |
| 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | |

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|----|----|----|----|----|----|
| | | | | | | 1 |
| 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 |
| 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |
| 30 | | | | | | |

